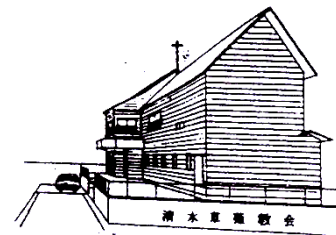


《今朝の聖書から》

“すなわち、わたしの欲している善はしないで、欲していない悪は、これを行っている。(ローマ7:21)”というみ言葉があります。暗唱聖句に加えていいと思います。ここだけではなく、善と悪、義(あるいは公義)と不義という言葉が繰り返して取り上げられています。そして神様の正しさに、支えられた状態を救いと呼び、神との関わりを持たない状態を滅びと言っているのです。今年はクリスマスに“救い”という言葉にスポットを当て、“救いが成し遂げられた”ということと共に確認しようと、アドベントの季節を過ごしてまいりました。去年は“変わる”ということを考えました。すなわち、神様と関係がなかった状態から、拒否しないで受け入れる者に変えられるのがクリスマスということでした。さて“救い”ですが、滅びの反対と聖書は教えています。罪を犯したカインに、神は“主はカインに言われた、「いや、そうではない。だれでもカインを殺す者は七倍の復讐を受けるでしょう」。そして主はカインを見付ける者が、だれも彼を打ち殺すことのないように、彼に一つのしるしをつけられた。(創世記4:15)”と、罪と善を知る知恵を与えました。預言者たちもみな、人々の、知ってあるいは知らずに犯した罪を指摘し、正しい道に立ち返らなければならぬことを指摘し続けています。人々は、悪を知っているのです。今も私たちは悪を知ってそれと向かい合って生きています。犯した罪を思い出してみましょ、たくさん思い出すことができれば、さらに良いと思います。そこには悪の魅力(試み)があったのです。“そこまでして正義を守らなくとも”とか、さまざまなことを思ったでしょう。“「主は、あがなう者としてシオンにきたり、ヤコブのうちの、とがを離れる者に至る」と(イザヤ59:20)”とイザヤへの託宣は、真実です。自分の力では、どんなに正しくあろうと思っても困難な、主を信じる人々に、いまやキリストの救いが、“贖い”として、罪と“交換”するものとして、いまや与えられたのです。キリストの義をまといましょ。

週報

2008年 12月 21日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp